



手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がることと、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関われる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいく「手話に学ぶ場所」だと考えます。

～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

2004年4月、9名のメンバーで発足。

神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

2008年11月現在、川崎2、横浜4、県域10 計16名で活動中!!

～ '08 9/14 神通研集会報告 ～

昨年話し合っ出て出された「災害時に必要な手話単語」をまとめてみました。

- 1、聴こえない 2、手話 3、通訳
- 4、筆談 5、FAX 6、メール
- 7、水 8、お弁当 9、ゴミ 10、毛布
- 11、オムツ 12、ミルク
- 13、電池 14、探す 15、連絡
- 16、家族(夫・妻・息子・娘・父・母)
- 17、～が欲しい 18、お願いします
- 19、～はどこですか? 20、ありがとう
- 21、わかる 22、わからない
- 23、トイレ 24、お風呂 25、受付
- 26、掲示場所 27、病院 28、怪我
- 29、病気 30、発熱 31、痛い
- 32、薬 33、おなかがすいた
- 34、のどが渴いた 35、助けて
- 36、歩けません 37、避難所
- 38、放送 39、情報 40、時間
- 41、ボランティア 42、危ない
- 43、火事 44、崩壊(倒壊)

サークルの学習の中に取り入れ、いざという時に使えるように広めていただくと共に、地域の高齢ろう者の方が使う手話などを学ばれるきっかけにするのも一つの方法ではないかと思えます。

～ 定例会10/11(土) ～

9月に行われた集会の反省と11月に開催される関東通研集会について話し合いました。

「災害」に対する取り組みは、サークルにとっての大切な活動のひとつです。サークル研究班としても引き続き情報収集していきます。

関東通研集会では、「手話に学ぶサークル」についての意見交換を行います。

また、12月に神奈川で関東ろう連盟の大会が開催されますが、大きな経済不安の昨今、企業からの協賛広告や要員の確保が難しくなっています。今まで通りのやり方が通用しなくなりつつあります。

【次回定例会】

11/30(日) 12:10～14:00

県民活動サポートセンター 701

～サークル研究班メンバーのささやき～

先日、職場の健康診断を受け結果が出ました。なんと再検査の案内つき！結果を見ても納得できず、すぐに職場の看護師のところに行き、「私の結果ではないのでは？」と思わず抗議。でも逆に、看護師からは生活面についての質問攻め。今までの生活を大反省、心を入れ替え、仕事と家庭と活動の両立を改めて誓ったところです。何をするにも健康第一ですね。

～まめ～